

小学校第5学年社会科学学習指導案

日時 平成24年10月30日(火)

指導者 5年担任 教諭 宮本ルミ

1 単元名 「これからの食料生産とわたしたち」(東京書籍 5年上 p82～p91)

2 単元について

(1) ねらいについて

本単元では、我が国の産業学習として、農業や水産業の様子、農業や水産業と国民生活との関連について学習する。それによって、様々な食料生産の特色や役割、食料確保の現状、運輸の働きを児童に理解させることができる。

また、食料生産の現状や食料を輸入している国、交通網などを調べる上で、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用でき、資料活用の技能を児童に身に付けさせることのできる教材である。さらに、これまでの学習を生かしながら、我が国の食料生産のあり方について具体的に考えさせていくことができるものである。

(2) 系統について

1 米作りのさかんな
庄内平野
(6月～7月)

2 水産業のさかんな
静岡県
(9月)

3 これからの食料
生産とわたしたち
(10月 本単元)

(3) 児童の実態について

※ 省略

(4) 指導にあたって

- 導入場面では、店で扱われている食料品や日本の30～40年間ほどの食生活の変化、食料品の購入の仕方などについて調べて学習問題をつくるが、実際にスーパーマーケット見学をしたり、家族への聞き取りをしたりする活動を取り入れ、学習課題が児童にとってより身近なものになるようにしたい。
- 食料生産の現状や変化について調べる資料として、各種の統計資料を使用するが、グラフの基本的な読み方については、丁寧な指導を心がけたい。そのためには、資料を拡大提示して着眼点を明確に示すようにする。
- 全体で考えを広げたり深めたりする場では、自分の考えと資料との関連を意識させるようにし、根拠をもって意見を述べる力を育てる。

ICT活用のポイント

①教師の活用ポイント

- ・写真や統計資料を実物投影機とプロジェクタで拡大提示して示すことで、課題に対して興味を持たせたり、焦点化したりする。また、資料の読み方などの基本的なスキルについても、くり返し指導を行い身につけさせる。

②児童の活用ポイント

- ・自分の考えを述べる際の根拠となる資料やノートなどを、実物投影機とプロジェクタを活用して全体で共有できるようにし、話し合いに生かせるようにする。

3 単元の目標

我が国の食料生産には、働く人の減少、環境への影響、安全性、低自給率などの問題点があることを理解し、安心・安全な食糧確保のための食糧確保のための食糧生産のあり方を考えようとする。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
自分の生活と食料生産との関わりをもとに、我が国の食料生産の現状と未来について関心をもち、我が国の食料生産の発展を願ってそのためにどうすればよいのかを考えようとしている。	我が国の食料生産をめぐる問題について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、環境への影響、輸入食材の安全性、生産者と消費者などの観点をもとに思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の食料生産の問題点について、統計など各種の資料を活用するなどして必要な情報を集めて読み取り、図や文章にまとめている。	我が国の食料生産は国民生活を支えていることや、これからの食料生産には、就業者の減少、食品の安全性、環境保全、自給と輸入の関係、生産者と消費者の新しいつながりなど、様々な課題があることを理解している。

5 指導計画及び評価基準（4時間扱い 本時は2時間目）

時	学習活動	指導上の留意事項	関	思	技	知	評価基準・評価方法
1	スーパーマーケットの野菜売り場の観察や、食の安全に関する新聞記事などから学習問題をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケット見学を実施する。品種、値段産地表示などの視点を与えて観察させる。 ・食の安全と関連づけて、自分ならどんな野菜を選ぶかなど、話し合いながら学習課題を持たせる。 	◎	○			調査や資料でわかったことをもとにした話し合いを通じて、我が国の食料生産に関する課題を見いだして、学習問題を立てている。
2	30～40年ほど前の食材と現在の食材との違いを調べ、統計資料などから食生活の変化の理由について調べてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の統計資料をもとに食生活の変化は、食料生産の変化であり、輸入量の変化でもあり、自給率の変化でもあることに目を向けさせる。 			○	◎	家庭の食生活の変化によって、食料品の輸入が増え、食料自給率が減少する等の問題が生じていることを理解している。
3	統計資料などから、食料生産の現場の変化を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の変化、就業人口、農業をする会社数の変化に目を向けさせる。 ・食材の購入方法が新しくなっていることや、地産地消の取り組み等から、これからの食料生産の在り方を考えさせる。 		○	◎		統計資料などの資料から、土地利用や就業者数、農業を営む会社の数、生産者と消費者との関係などが変化していることを読み取っている。
4	食料生産と環境とをつなげて、水を媒介として大きな観点から見ていくと、すべてがつながっていくことを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・陸と海と空とのつながりを、水を媒介として考えさせ、簡単な模式図にまとめさせる。 	◎		○		食料生産と環境とのつながりに関心をもち、安心・安全な食料の確保のための環境保全の大切さを考えようとしている。

6 本時の展開

(1) 目標 家庭の食生活の変化によって、日本が食料の多くを輸入に頼っている問題に気づき、食糧の自給を高めていくことの大切さを理解する。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT活用
導入 5分	1 30～40年ほど前と現在の食材とを比較し、変化について話し合う。 (T) 2つの写真を比べましょう。 (C) 今の方が食材が多いね。 (C) 和食から洋食になってきた。 (C) 魚から肉が多くなったね。	<ul style="list-style-type: none"> 昔と今の食事例の写真を並べて提示し、食材の種類や数を比較しやすくする。 一年中食べられる物、外国から輸入される果物などにも着目させ、めあてにつなぐ。 	プロジェクタ スクリーン 実物投影機 PC
めあて わたしたちの食生活の変化や問題点について調べよう。			
展開 30分	2 グラフから読み取ったり、考えたことをまとめる。 (T) 教科書の資料から、わかることや考えたことをシートに書きましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 資料① 食料品別の消費量の変化 資料② 食料品別の輸入量の変化 資料③ 日本と主な国の穀物自給率の変化 資料④ 耕作放棄地面積のうつり変わり 3 グラフから読み取ったことや考えたことについて話し合う。 【言語活動】話し合い活動 自分の考えを広げたり、深めたりするために、根拠をもとに話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにグラフ資料を印刷しておき、気づきや自分の考えを自由に書き込ませる。 	実物投影機 プロジェクタ スクリーン PC
	(T) 気づいたことを出し合ひましょう。 (C) 主食の米が減っています。 (C) 米以外の食料品の輸入が増えています。 (C) 田畑の面積が減っています。日本の自給率が一番低いです。 (T) 輸入できなかつたら、日本の食料品はどうなるかな？ (C) 食料品が不足して困ると思います。	◆知識・理解 (シート・発言) B基準 グラフの読み取りから、家庭の食生活の変化により、食料品の輸入が増え、食料自給率が減少するなどの問題が生じていることを理解している。 A基準 B基準に加え、考えの根拠となるいくつかの資料を関連づけて考えることができている。 <B基準に達していない児童への手立て> ○グラフ資料の読み取りを、視点を提示しながら一つ一つ指導する。	

<p>終末10分</p>	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(T)今日の学習でわかったことや、もっと調べてみたいことは、どんなことですか。</p> <p>(C)輸入に頼らない食料生産を目指すには…。</p>	<p>徹底指導 (ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食生活の変化」「輸入のプラスとマイナス」などの視点を持たせ、シートに自分の言葉で学習のまとめをさせる。 ・食料生産における「問題点」にふれ次時の課題へとつなぐ。 	
--------------	--	---	--